



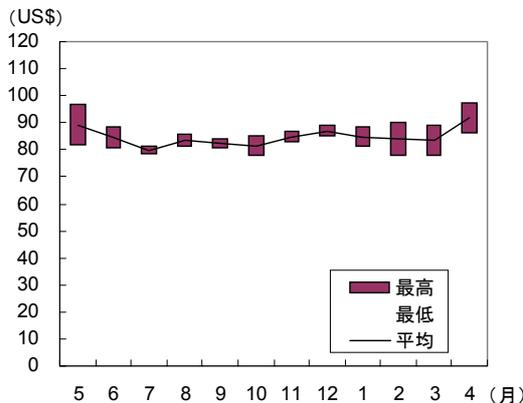
# TOKYO NEWS FLASH

米国食肉輸出連合会 (USMEF)  
Volume 239 April 28, 2003

## 米国食肉市場ニュース

### ～ 牛肉 ～

去勢牛の 100 ポンド (約 45kg) 当たりの価格  
(オクラホマシティー・体重 600～700 ポンド)



資料 : Cattle-Glenn Grimes & Ron Plain

- 注 : 1. 2002年5月～2003年4月までのデータ  
2. 該当月の第1週のデータより作成 (2002年9月および2003年1月を除く)  
3. 2002年9・11月はイヤリングビーフ (若齢牛) による  
4. 2002年12月は体重650～700ポンドのイヤリングビーフ (若齢牛) による

### 牛肉市況 (4月14～18日)

- **週間と畜頭数 :**  
66万8,000頭 (前年比1.9%減)。
- **牛肉・子牛肉の輸出動向 (2003年1～2月) :**  
前年比0.3%増。対日輸出は、BSEの影響による落ち込みから回復を続けている。しかし対カナダ輸出は前年比約2%、対メキシコは同9.3%、対韓国は同15%、それぞれ減少。
- **肥育牛の取引価格 (100ポンド [約45kg] 当たり) :**  
軟調基調で、生体ベースで前週比1.00～2.00ドル安、枝肉ベースで2.00～4.00安。中西部の直接取引では78.00～79.50ドル、ハイプレーンズでは78.00～80.00でそれぞれ売買。

オクラホマシティーにおける去勢素牛の体重別、  
100ポンド (約45kg) 当たりの価格 (US\$)

体重 (ポンド)	4月14～18日
450～500	103.60～112.50
500～550	96.00～101.50
600～650	86.50～94.25
650～700	84.25～89.50
700～750	80.50～86.75
750～800	78.00～82.50
800～850	75.25～80.50
850～900	73.25～77.75
900～950	71.75～74.00
950～1000	69.00～72.50

(Cattle-Glenn Grimes & Ron Plain, 4/18/2003)

主要12州<sup>1</sup>のフィードロット<sup>2</sup>内頭数、  
前年比8%減 (2003年4月1日現在)

	2003年 <sup>3</sup>	対前年
3月1日現在フィードロット内頭数 <sup>4</sup>	10,201	92%
3月導入頭数	1,987	104%
3月出荷頭数	1,745	98%
3月のその他の消失 <sup>5</sup>	60	91%
4月1日現在フィードロット内頭数 <sup>6</sup>	10,383	93%

- 注 : 1. アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、アイダホ、アイオワ、カンザス、ネブラスカ、ニューメキシコ、オクラホマ、サウスダコタ、テキサス、ワシントン。  
2. 収容頭数1000頭以上。  
3. 単位 : 1000頭。  
4. 穀類あるいは他の濃縮飼料を主食とし、セレクト以上として肥育される、と畜用の牛、子牛。  
5. 死亡、放牧場への移動、他のフィードロットへの移動など。

(USDA's Cattle on Feed, 4/17/2003)

### ～ 豚肉 ～

### 豚肉市況 (4月14～18日)

- **週間と畜頭数 :**  
推定188万8,000頭で、予測を若干上回るペースで引き続き推移。4月5日までの年間累計 (週ベース) では、前年比約2%減。
- **肉豚の現金取引価格 (100ポンド [約45kg] 当たり) :**  
軟調基調。18日朝の価格は、前週終値と変わらず、または2.00ドル安。

● **豚肉の輸出動向** (2003年1~2月) :

前年比約4%増、2月単月では7.6%増。生産高は、過去最高を記録した前年を下回ってはいるものの、いまだに高いレベルで推移していることもあって、今年引き続き輸出が伸びれば、肉豚価格に良い影響を与えると見られる。

● **経産豚・未經産豚のと畜動向** :

生産者側で繁殖用豚の削減が続いている模様。経産豚のと畜頭数は、4月5日までの4週間で前年同期比10%増、同日までの年間累計では同8%増にとどまっている(繁殖用豚の頭数調整後の数値)。未經産豚の同日までの年間と畜頭数は、同1.9%増。

● **MFA 電話競売における素豚価格**

(100ポンド [約45kg] 当たり) :

2週前に比べ10.00~15.00ドル安。

主要市場における100ポンド(約45kg) 当たりの最高価格(US\$)

	4月18日
ペオリア	31.00
スーシェイ	N/A
セントポール	N/A
ミズーリ中央部	32.50

185ポンド物(約83.5kg)の枝肉平均価格(US\$)

	4月18日
東部トウモロコシ地帯	45.40
西部トウモロコシ地帯	45.35
アイオワ・ミネソタ	45.15
全国	45.40

MFA 電話競売における素豚価格(US\$)

体重(ポンド)	4月14~18日
40~50	94.50
50~60	69.00~81.00
60~70	--
70~80	54.50~78.00

100ポンド(約45kg)当たりの豚肉の製品価格 (4月18日正午/USドル)

製品名	価格 (前週比増減)	備考
ロイン	101.00 (+6.00)	
ポストン・バット	63.00 (+6.78)	
ハム	42.00 (-1.00)	17~20ポンド物 (約7.70~9.06kg)
ポーケベリー	78.00 (-9.00)	12~14ポンド物 (約5.44~6.43kg)

(Hogs-Glenn Grimes & Ron Plain, 4/18/2003)

## 業界ニュース

### 米国政府、食肉表示の用語統一を目指す

最近の食肉製品の表示は非常に細かく、例えばステーキ肉の表示の場合、「この牛はネブラスカで生まれ、牧草を食べ、牧場で伸びのびと育った後出荷された」といった具合に、その牛の一生が分かるほど。また製品表示は、牧場主や企業にとっては、陳列棚で自社商品をライバル商品よりも目立たせるためのセールスツールでもある。

しかし、生産者や加工業者、消費者保護団体からは、製品表示に使われる言葉の意味が明確でなければ、買物客には、自分が購入する製品に何が含まれ、何が含まれていないかが分からないという声が上がっている。

この混乱を整理するため米農務省(USDA)と政府は、表示の言葉に関する基準を統一する構え。表示基準が策定されれば、家畜の成長促進剤である抗生物質やホルモンについても、基準に則った表記が求められるようになる。

基準案では、抗生物質を投与していなくても「抗生物質ゼロ」という言葉は使用できず、「抗生物質不使用」「治療量以下の抗生物質非投与」(抗生物質は成長促進剤として健康な家畜に投与される)、または「検知可能な抗生物質残留物なし」と表示しなければならない。これに対して消費者組合は、抗生物質を投与している場合でも「抗生物質は食肉中に残留していない」と表示できる点が、特に問題だとしている。

ホルモンに関しても同様で、「ホルモンゼロ」という表記は認められず、「補足ホルモン不使用」や「追加ホルモン非投与」といった言葉を使用しなければならない。基準が承認される前にUSDAが国民に詳しく説明しなければ、こうした表示は消費者の助けにはならないだろう。

(Montanaforum.com, 4/09/2003)

(参考)

米国のレッドミート生産量<sup>1</sup> (連邦検査を受けたもの)

(100万ポンド)

種別	2002	2003	2003	2003年3月 (%)		1~3月累計 <sup>2</sup>		
	3月	2月	3月	対2002年 3月	対2003年 2月	2002年	2003年	対2002年 (%)
牛肉	2,028	1,913	2,016	99%	105%	6,280	6,187	99%
子牛肉	14.6	15.4	16.0	110%	104%	44.8	48.7	109%
豚肉	1,563	1,504	1,602	102%	106%	4,726	4,837	102%
ラム/マトン	21.6	14.3	17.6	81%	122%	55.7	47.3	85%
レッドミート合計	3,627	3,447	3,652	101%	106%	11,106	11,120	100%

資料 : USDA's Livestock Slaughter, 04/17/2003

注 : 1. パッカーの枝肉重量に基づく。農場でのと畜は除く。

2. 切り上げ、切り捨てなしのデータに基づく累計および比率。